

～つぎによむ本やどくしょかんそう文の本に～

流山市立図書館でかりられる

おすすめの本！

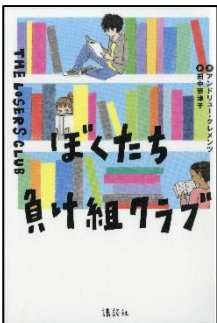
5・6年生
むけ



夏休みにぴったりの本を、
たくさんえらんでみたよ！

おもしろい本で、ながーいお休みを
楽しんでみない！？

※□の中の数字は本のラベルについでる数字だよ。
本をさがす、てがかりにしてみてね。

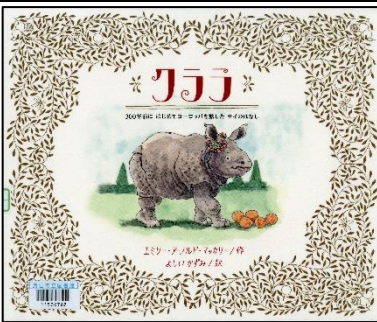


『ぼくたち^ま負け^{くみ}組クラブ』 933/クレ

アンドリュー・クレメンツ／著 田中奈津子／訳

講談社 255p

本好きなアレックが放課後も読書をするためにつくったのは、「負け組クラブ」。変な名前なのに、意外と次々に人が増えてきて…。本好きな君にはとくにおすすめ。



『クララ 300年前^{ねんまえ}にはじめてヨーロッパ^{たび}を旅したサイのはなし』 E/マツ

エミリー・アーノルド・マッカーリー／作

よしいかずみ／訳 BL出版 41p

海をこえてきたサイのクララは、ヨーロッパじゅうで大人気に。船長^{せんちょう}との友情^{ゆうじょう}にもほろりとする一冊^{いっさつ}。



『チームふたり』 ㊦

吉野万里子／作 宮尾和孝／絵 学研教育出版 191p

6年生の大地^{だいち}は、卓球部^{たっきゅうぶ}のキャプテン。引退^{いんたい}の日も近いのに、ダブルスで組まされたのは、自分よりも力の劣る後輩^{おとこうはい}、純^{じゆん}だった。一方^{いっぽう}で、お父さんのバス会社で大きな事故^{じこ}があり…。チームの意味^{いみ}を考えさせられる作品。シリーズあり。



『夏の庭^{なつ にわ} - The Friends -』 913/ユモ

湯本夏樹実／作 徳間書店 232p

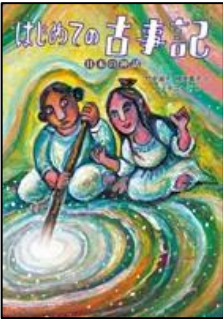
人の死の瞬間^{しゆんかん}を見たいといって、元気のないおじいさんを見張り^{みはり}はじめた「ぼく」ら3人組^{にんぐみ}だったが、見られているうちにおじいさん、だんだん元気になってきて…。12歳^{さい}の忘れられない夏^{なつ}を描く^{えが}、笑い^{わら}いと涙^{なみだ}がとまらない名作。



『宇宙のみなしご』 ㊦

森絵都／著 講談社 206p

陽子はいつも、思い浮かんだことはやってみたい性格。弟のリンと最近始めたのは…なんと、いろんな家の屋根のぼり！？大人になる前に読んでおきたい、生きていく勇気をもらえる一冊。



『はじめての古事記 日本の神話』 ㊧13

竹中淑子・根岸貴子／文 スズキコージ／絵

徳間書店 125p

日本にはたくさんの神さまがいました。死んだ妻に会うために黄泉の国を旅したり、かいぶつヤマタノオロチを退治したり…昔から日本に伝わる、神さまたちの物語。



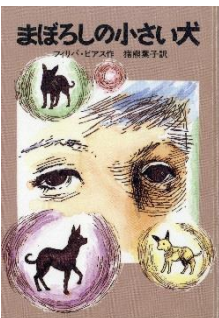
『やっ、ひらめいた! 奇想天外発明百科』 ㊨507

マウゴジャタ・ミチエスカ／文 アレクサンドラ・ミジエリンスカ&ダニエル・ミジェリンスキ／絵

阿部優子／訳 徳間書店 122p

雲製造機、ランニング発電マシン、空飛ぶ自転車！？全部

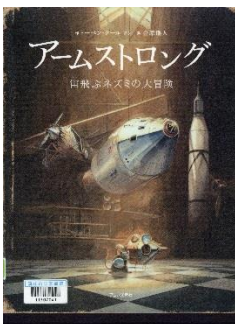
実際にあるおもしろ発明品を、絵入りで紹介！



『まぼろしの小さい犬』 ㊩

フィリパ・ピアス／作 猪熊葉子／訳 岩波書店 241p

ベンはおじいさんから誕生日に犬をもらえると聞いて、とても楽しみにしていた。でも、結局届いたのは一枚の犬の絵だけ。がっかりしたベンだったが、その絵から自分だけの想像の犬をつくりだす…。



『アームストロング 月飛ぶネズミの大冒険』

㊪／クル

トーベン・クールマン／作 金原瑞人／訳 プロンズ新社 117p

まだ人間も月に行ったことのない時代、望遠鏡を見て、月は大きな岩だと発見したネズミが月に行くまでの奮闘記。たくさんの美しい絵が物語を盛り上げます。



『あらしの前』 ㊫

ドラ・ド・ヨング／作 吉野源三郎／訳 岩波書店 272p

オランダで明るくのんきに毎日を送っている、6人兄妹のオールト一家。ユダヤ人の男の子もやってきて、皆で仲良くくらししていましたが、次第にかれらにも戦争の手が忍び寄ります。続編『あらしのあと』もあり。